

みんなあでつながる！ひろげる！地域のチカラ

# プラットふくし

こ う ち

高知県社会福祉協議会広報誌



巻頭特集

## 働きやすい 福祉職場づくり 6つの メソッド

2022  
4月号

vol.3

### contents

ボランティア・NPO情報 てをつなGO！ — 6  
福祉がつなぐ未来へのネットワーク

シニアのちょっといい話 — 8  
里改田長寿会 | 高知県弓道連盟

プラットこうち人 岡田光輝さん — 10

高知県社協からのお知らせ — 11

市町村社会福祉協議会ご紹介 — 12

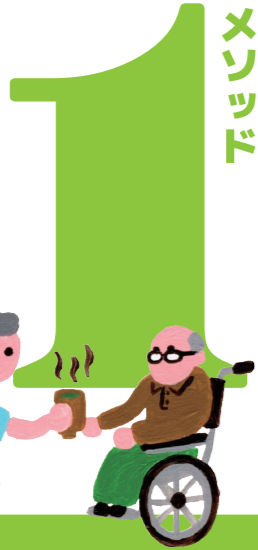
香南市社会福祉協議会

# 働きやすい 福祉職場づくり 6つの メソッド

より高めていくために  
介護サービスの質を

多様な  
人材確保

メソッド



県内の先進事例

### 介護業務の “切り出し”で 人材確保をすすめる

特別養護老人ホーム  
シーサイドホーム桂浜 (高知市長浜)

シーサイドホーム桂浜では、出産などライフステージが変わっても長く働き続けられるように柔軟な勤務体制を整えてきました。

そうしたなかで導入することになったのが、介護職員の業務のうち専門性を必要としない補助的業務を担う「介護助手」です。

導入にあたっては、介護助手をどのような目的で導入し、どのような役割分担を正職員との間で行っていくのか、職員間での意識共有を丁寧に行いました。

採用されたのは、福祉分野の仕事は未経験だが、やる気にあふれていた当時77歳の門田さん。膝への負担に配慮して1時間につき10分の休憩を取るなど、ご本人に応じた働き方を提案されたそうです。

門田さんは、配膳下膳やコーヒータイムの準備、利用者の見守りなど身体介護に関わらない業務で活躍されています。



施設長と話す介護助手の門田さん(左)

採用されてから4年が経過し、81歳となられた現在でも現役として働いています。職員にとっては「将来の職員像」として、施設の利用者にとっては「人生のモデル像」としての立ち位置も確立しており、「利用者の笑顔や関わりを家族のように感じる。90歳まで働きたい」とご本人の生きがいにも繋がっています。

このように社会参加したい高齢者の皆さんに介護助手の業務を担っていただくことで、職員も丁寧な関わりの実現ができ、結果的に介護現場のサービスの質の向上に繋がっています。



さまざまな業界で「人材不足」が叫ばれている昨今。  
より良い福祉サービスと快適な職場づくりを実現していくために求められる  
「働きやすい職場」づくりの6つのメソッド(方法)をご紹介します!

「福祉の仕事」は、人と人が関わりながら、その人のより良い暮らしを支えていく、私たちの生活にとって必要不可欠な仕事です。

エッセンシャルワーカー(社会機能維持者)とよばれる福祉人材の必要性は増す一方ですが、全国的に進む労働力人口の減少で「人材不足」は深刻化しており、福祉人材の確保は今後ますます困難になっていくことが予測されています。

言うまでもなく、質の高い福祉サービスを維持するためには、人材確保がきわめて重要であり、

そのためにも、労働者から「選ばれる」職場を作ることが重要です。

今回の特集では、施設や事業所で「働きやすい職場」をつかっていくための6つの方法をご紹介します!!



## ひとりひとりの実力をパワーアップ! 研修制度

メソッド

施設・事業所は、職員一人ひとりが成長し対応力を向上していくために、業務に必要な知識や技術の習得を目指し、職員教育・研修(OJT、Off-JT)に取り組んでいます。

また、職員の資質向上のための「キャリアアップの仕組み」を構築して取り組んでいる施設・事業所は多くなっています。

これは、キャリアアップを求める職員はもとより、施設・事業所にとっても人材育成の点からも重要であり、職員の早期離職の防止、職場への定着につながっています。



県内の先進事例

### 職員ひとりひとりの できることを 増やしていくために 多機能事業所 ウィッシュかがみの(南国市)

「現場で現場の人を育てていくこと」をポリシーに、職員の育成に取り組んでいるのが、ウィッシュかがみの(南国市)。

職員の方々には、利用者との関わりの中で発生したあらゆる事象を通じ、「なぜ、こうなったか」「どうしたことなのか」といった原因や理由を自分で考えることができるよう、あえて職員に問いかけを重ね、良い支援ができた時には職員をしっかりほめて、職員ができること・分かることを増やしていくようにしているとか。

職員一人一人が自分自身で「できること」「分かること」が増えていくと、自分で判断ができるようになります。毎日夕方の



職員ミーティングでは、この場を通して相互に支援を振り返り、よりよい支援を導き出すように問いかけをしあい、一緒になって考えていきます。

職員育成のポイントは「リーダーづくり」とのこと。リーダーが職員と一緒に汗を流して、OJTで育てていく。「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」という山本五十六の名言を実践しながら、育った職員が次の職員を育てるという好循環が生まれているのです。



利用者と職員の負担を軽減する!

# ICT等の導入

メソッド



県内の先進事例



## 見守りシステムの導入で利用者と職員の負担を大幅に軽減!

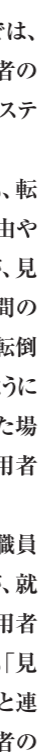
ケアハウス四万十 (四万十市)

四万十市にあるケアハウス四万十では、各居室の天井に設置したカメラで利用者の状況を把握することができる「見守りシステム」を導入しています。

以前は利用者が部屋で転倒しても、転倒前の状況やどのように転んだかの理由や原因は推測するしかできませんでした。見守りシステムの導入後は転倒前後1分間の映像を確認することができるようになり、転倒の原因やリスクを判定できるようになりました(映像は、転倒や離床といった場合しか見られないようになっており、利用者のプライバシーは守られている)。

また、夜間の巡回時は1室1室ごとに職員が利用者の状態を確認していましたが、就寝中に扉が開閉されたりするために利用者の安眠の妨げになっていました。これも「見守りシステム」の導入後は居室のカメラと連動しているスマートフォンを通じて利用者の

呼吸状態をチェックすることができるようになり、定期巡回を減らすことができました。「見守りシステム」というICTを導入することで、利用者の眠りを妨げない「ケアの質の向上」に加え、夜勤職員の大幅な負担軽減を実現することができたのです。



介護する側・される側 みんなに優しい!

# ノーリフティングケア

メソッド



ノーリフティングケアとは、介護する側・される側の双方において、安全で安心な「持ち上げない・抱え上げない・引きずらない」ケアのこと。安全なケア現場を実現するための手法の1つで、単にリフトを導入する、使い方を覚える、困っている人にだけ使うということではなく、組織全体で取り組む“マネジメント”が何より重要です。

高知県では、2016年度に「高知家ノーリフティングケア宣言」を掲げ、ノーリフティングケアを本県のスタンダードなケアとすることを目指し推進しています。現在では多くの施設・事業所で実践され、職員の腰痛予防にも効果があり、腰痛が理由で離職する職員は減少しています。

# メンター制

より良い雰囲気職場をつくるために



メソッド



業務だけでなく精神面でのサポートも行う制度で、人材育成や職員の定着率の向上にも役立っています。これは、メンター(直属の上司以外の先輩職員)が、後輩職員の仕事やメンタル面のサポートをする制度です。

福祉の仕事は身体的負担(体力的な疲れ)や精神的負担(ストレス)が大きいといわれており、特に新人職員の早期離職を防ぐための仕組みとして取り組まれています。

これは、人材育成だけではなく、新人職員と先輩職員との距離を縮めるとともに、組織を活性化し、職員同士が育成し合う職場風土へとつながっていくものです。

仕事と仕事以外の生活(家族との時間、趣味・学習、休養、地域活動など)との調和を図り、その両方を充実させることで仕事がうまくいっていると、心にもゆとりが生まれ、私生活が充実すれば仕事のパフォーマンスもさらに上がるという好循環につながっていくものです。全国では、モデル事業として週休3日制を導入して取り組んでいる事業所もあります。これは、希望する職員の1日8時間勤務を10時間勤務とし、休日を増やす仕組みで、職員の残業が減少し休暇が増加したほか、勤務シフトの見直しによって業務の質が向上したケースなど、福祉現場の魅力向上や業務改善につながっています。

ワーク・ライフ・バランス (週休3日制等)

調和のとれた働き方を実現する



メソッド



今回の「働きやすい福祉職場づくり6つのメソッド」は、今、福祉現場で取り組まれていることであり、福祉現場で働く職員からは、「やりがい」や「充実感」があるから福祉を仕事として続けられているといった意見が聞かれます。職員が働きやすい職場をつくっていく

ことは、職員のスキルやモチベーションの向上、サービスの質の向上にもつながり、利用者にとってのQOL(生活の質)の向上にもつながっていくものです。

一方で、いくら仕組みを整えても、施設・事業所の理念やそれに沿ったケアが提供されなければ、職員のモチベーショ

ンは低下し、離職やサービスの低下につながっていきます。

施設・事業所の理念に沿った質の高いサービスを提供していこうとする姿勢は「働きやすい職場」の形成にもつながり、喫緊の課題である福祉人材の確保のためにも重要なことの1つです。



毎日が女子会!? 笑いの絶えない職場です

## NPO法人 ふくしねっと COCOたらす

土佐清水市浜町6-122 シェアオフィス土佐清水2号室  
☎0880・87・9209

土佐清水市は高齢化率が50%を超える中、相談支援事業所の生活を支えるための仕組みが限られていることが課題でした。そんなCOCOたらすでは、地域に住む住民の力や限られた資源をつなぎ合わせ、土佐清水らしい支え合いの形をつくっています。

### 地域の安心のために

COCOたらすの活動では、施設介護ボランティアや見守り支援員など、地域住民と一緒に高齢者や障害者の生活支援サービスを実施しています。専門職の少ない土佐清水市において、住民同士の「支え合い」は貴重な地域資源です。その仕組みづくりのためのボランティア養成からフォローアップ研修の実施、活動者とのコミュニケーションを欠かしません。ボランティアに行く人も、来てもらう人も安心して利用できるよう双方を支援することを心掛けています。

# 福祉が つなぐ 未来への ネットワーク

県内各地で多様な分野の活動を展開しているNPO。その活動は団体単独で行うものもありますが、様々なネットワークを活かしながら

活動の幅を広げている例も少なくありません。

今号では、福祉分野の活動を中心に地域住民や関係団体等とつながり、住み慣れた地域で長く暮らし続けるためのネットワークづくりに注目して、高知県内で活動する2つの団体を紹介します。



生活支援サポーター養成研修の様子

## COCOたらすから生まれる 福祉のネットワーク

COCOたらすでは、土佐清水で暮らし人たちが住み慣れた場所で安心して暮らし続けられるよう、利用者にとって必要なものは既存の資源を活用しながら作り出してきました。今後も、これまでの活動でつながってきた地域とのネットワークをさらに広げていきながら、地域のために何かを生み出せるNPOでありたいと、力強く語ってくれました。



高校生も養成研修を受講し、ボランティア活動をしています

んな思いが山崎さんの原動力になっています。その思いを後押しする人や現在のスタッフとの出会い、数々の偶然が重なり今のみらい予想図が形作られています。

### 「等身大のできること」を着実に

重症心身障害児が笑顔で安心して過ごせる居場所づくり、24時間介護を余儀なくされている家庭の支援を大きな目的のひとつとし、2017年に設立された「特定非営利活動法人みらい予想図」。現在は、「重症児デイサービスはいっぱ」「重症児者デイサービスうーっと」の2つの事業所を運営しています。今回は、みらい予想図設立に至る思いや団体として思い描く未来に着目して活動をご紹介します。

### 支えてくれた優しさへの恩返しを

理事長である山崎理恵さんは、重複障害のお子さんを育てるシングルマザーです。昼夜を問わず必要な介護に体調を崩し限界を感じることもありました。そんな時に支えとなったのが福祉や医療などのサービスや周囲の人たちからの温かい励ましの言葉だったそう。支援や励ましを受けただけではなく、自分も周囲に返していきたい、

みんなであ  
支えあい、  
認めあえる  
優しい社会を！

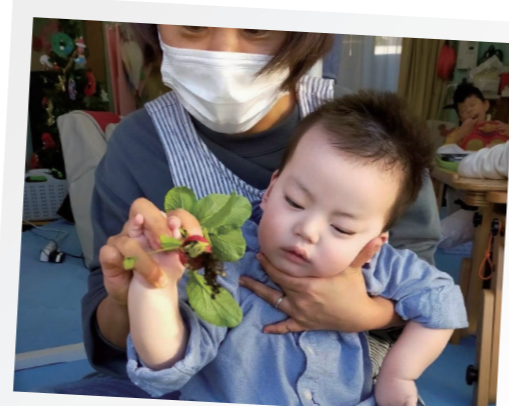
## NPO法人 みらい予想図

高知市朝倉南町1-12 (☎088・855・7366)

### みらい予想図が描く高知の未来

山崎さんが目指すのは、重症心身障害の子どもたちが豊かに、心地よく地域で生活していくことができるための風土づくりです。そのためには、自分たちですべてを担っていくのではなく、個別に細やかなサービスができる事業所や人材を育てていき、高知県全体を住みやすくしていくようなネットワークづくり、環境づくりにしていくことが理想の形だそう。ネットワークについても福祉分野だけでなく、音楽やスポーツ、ICTなどあらゆる分野の方たちとつながりを持ち、お互いの活動を掛け合わせることができればベストです。NPOらしさを活かしながら、真摯に、謙虚に、そして大胆に、たくさんの人たちの輝く笑顔を生み出す活動を、みらい予想図ではこれからも続けていきます。

利用者一人一人に合わせた丁寧な支援を実施しています



つながる、ひろがる、セカンドライフ。シニア世代の生きがい

シニアの  
ちょっと  
いい話  
vol.3

シニア世代の皆さんが生きがいのあるセカンドライフを送るための参考となるような、県内でいきいきと地域活動をされている皆さんをご紹介します。



# 高知県弓道連盟

高知市

めざすは次のねりんピックで優勝です！

96歳という高齢ながら、自身の練習はもちろん、後輩の指導にも日々尽力されている楠瀬甲一さん。今年度、高知県社会福祉協議会が主催するスポーツや文化等において素晴らしい活躍を見せるシニアを表彰する「第8回高知の輝くシニア大賞」でシニア大賞を受賞された。

楠瀬さんは15歳から弓道を始めた。一度は離れたものの教員を定年で退職したのち62歳にして再び弓を持ち、それから30年以上にわたり弓道の普及活動に貢献されてきた。教士六段※の腕前で、今でも毎月高知県弓道連盟で開催される月例会でも入賞されるほど。また、その姿は弓道愛好家の目標や憧れとなっている。現在も現役で奮闘する秘訣は、「弓道を通した、たくさんの人との出会い」と優しい笑顔で語ってくれた。

7時前に起床、散歩後、朝食を取り弓道場へ向かう。10時頃から指導を開始。次々と教え子がやってきて、「昼食を食べる時間もない」と楠瀬さんは笑う。仕事が終わってから練習に来る人のために、週の何日かは夜間も指導している。

また、弓道を通じて海外と日本の架け橋にもなっている。英語教師として来日した外国人にも弓道を教え、段位を取得された人や帰国後も弓道を続ける人もおり、再度の来日の際は、わざわざ楠瀬さんに会いに来る人もいるそうだ。LINE等を通じてやり取りは今も続いている。「知っている知識はなんでも教えたい」その人柄に自然と人が集まってくるようだ。

楠瀬さんの所属する高知県弓道連盟は会員数200名。高知県内に6か所の弓道場で指導をしていて、大会の主催や講習会、昇段試験、月に1回の月例会を開催している。また、毎年5月に開催するこうちシニアスポーツ交流大会や秋に開催される、ねりんピックへの選手派遣も行っているほか、年に数回は募集定員がすぐいっぱいになる人気ぶりを誇る体験教室を開催している。

「弓道とは、追求・探求していく奥の深さがあります。競技会へ出場し入賞するために仲間たちと一緒に頑張れること、そして何よりも心身共に鍛えることができる素晴らしさがあるんです。」と高知県弓道連盟理事長の川田さんと会長の陰本さんが語ってくれた。今後の目標は、全国大会で活躍できるように高知県のレベルを底上げしていきたいとのこと。楠瀬さんをはじめ、高知県弓道連盟の活躍を今後も期待したい。

※教士・人格、技能、識見はもちろん弓道指導に必要な学識、教養および実力を有し、かつ功績顕著であること。  
※六段・射形・射術・体配共に優秀にして射品高く、精練の功顕著な者

弓道連盟のみなさん



楠瀬さんの携帯電話はiPhone。教え子からの休みの連絡や相談もLINEでやり取りする。

# 里改田長生会

南国市

みんなで元気に楽しみたい！

「さわやかクラブ南国」の愛称で知られる南国市老人クラブ連合会では、南国市全体の老人クラブ間の交流や研修、健康づくりの場の提供や老人クラブ活動についての企画立案を行っている。里改田長生会は、そのなかのひとつ、平均年齢80歳のクラブだ。

毎週金曜日の13時から15時まで南国市立三和公民館に集まって活動している。13時からメンバーが徐々に集まり、まずはお茶の時間。「今日は羊羹作って来た〜」「頂き物のカステラ持って来た〜」など各々が持ち寄ったお菓子を食べながらわいわいおしゃべり。

その後「輪投げ」を5回ずつ順番に投げていく。輪投げ台までの距離は2メートル、輪投げを連続で9本投げる。書かれている数字の合計が得点となる。縦・横・斜めに並んで入ると、1列につき15点加算され、全部に入るとパーフェクト得点もあり300得点となる。

「とこを狙いゆが〜」「今日は調子が悪い」「はい合計30点」と笑い声はたえない。毎回、得点を付けて、会長の山岡さんがパソコンに記録。数か月に一度、みなさんに配布しているとの事。毎年秋に開催される、ろうれんピックで好成績を収めるため、ここでの練習はかかせない。「この間は他の地区の人に負けたき」と表彰状を眺めながら山岡さん。取材班も初めて体験したが、なかなか入らない。体のどこを使えばいいのか、膝?腕?腰?斜めに入れていけば何点でと、体と頭を使うスポーツだ。

輪投げの次は、ポッチャを2組に分かれて始める。昨年の大会で準優勝をおさめている。ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競う競技だ。みなさん真剣に、そして楽しみながらゲームをこなしていく。そして15時前、ゲームを終えると、床掃除や机を戻し、2時間の活動は終了した。

「コロナになってあんまり散歩することがなくなった。ここに来るのが楽しみ」とみなさんは言う。今年のクラブの抱負は「みんなが元気で活動していければなにより。」と会長の山岡さんは微笑んだ。

老人クラブでは会員数の減少が課題となっている。南国市老人クラブ連合会の有瀬さんは、「老人クラブの他にも活動の選択肢が増えている。しかし現状を維持し、会員のみなさんが楽しく続けられるようにサポートしていきたい。」と抱負を語った。住み慣れた地域で元気に暮らしていくために、老人クラブの役割は今後ますます重要となっていくに違いない。

長生会のみなさん

ポッチャや輪投げ、お茶菓子タイムを楽しむ会員の皆さん



### 令和4年度 高齢者生きがい・健康づくり支援事業助成金

高齢者の生きがい・健康づくりに取り組む団体やサークル活動に対して、5万円を限度に助成を行います。詳細は、「高知いきがいのネット」または本会ホームページからご覧ください。  
 [申込・問合せ先] 高知県社会福祉協議会  
 いきいきライブ推進課  
 TEL: 088-844-9054 FAX: 088-844-9411  
 E-mail: ikigai@pippikochi.or.jp

### WEBによる研修受付システム導入のお知らせ

研修情報の確認や申込、キャンセルなど一連の手続きがウェブサイトで行える研修受付システムを令和4年4月から導入します。職員の受講履歴も確認できます。新規登録は次のURLから。  
<https://www.shakyo-kensyu.jp/kochi/>  
 [問合せ先] 高知県福祉研修センター  
 TEL: 088-844-3605  
 FAX: 088-844-9443

### こうちシニアスポーツ交流大会2022 参加者募集!!

本大会は「高齢者の健康と生きがいづくり」を目的として開催する高齢者のスポーツ等の大会です。今年11月に開催される「ねりんピックかながわ2022」に参加する高知県選手の選考会も兼ねています(一部競技を除く)。開催競技・開催日等については、本会ホームページをご覧ください  
 [日時] 令和4年4月～5月  
 [場所] 県立春野総合運動公園 他  
 [申込締切] 各競技開催の2週間前(14日前)  
 [問合せ先] 高知県社会福祉協議会  
 いきいきライブ推進課  
 TEL: 088-844-9054  
 FAX: 088-844-9411



## 高知県社協からのお知らせ

### 令和4年度 第1回ふくし就職フェア 今夏開催!!

県内の福祉事業所が一堂に介して、就職したい方(新卒者、他分野からの転職希望者、再就職希望者等)との福祉の仕事に関する相談会を、WEB及び対面方式により実施します。  
 [日時] 対面: 令和4年7月23日(土)  
 WEB: 7月22日(金)～23日(土)  
 [場所] 高知県立ふくし交流プラザ(予定)  
 高知市朝倉375-1  
 [問合せ先] 高知県福祉人材センター  
 TEL: 088-844-3511  
 FAX: 088-821-6765



## 岡田光輝さん (27)

## プラットフォーム こうちえい VOL.3

**神** 奈川県から土佐町に移住した岡田光輝さん。生徒数減少により存続の危機となった嶺北高校を魅力ある学校とするため、高校生の学びの環境の充実に取り組む「嶺北高校魅力化プロジェクト」に関わっている。

### 偶然からのつながり

大学を卒業後、どこか田舎に行つて物を書きたいと思つた岡田さんは、友人の知人を頼り、1、2週間の予定で土佐町へ。時を同じくして、土佐町ではカヌーによる町おこしプロジェクトが立ち上がり、ハンガリー人の元世界チャンピオンがコーチとして来日することになったが、日本語が分からない状態だということ、岡田さんが滞在している間、通訳とお世話をしてもらえないかと話が合った。「買い物について行ったり、通訳をする時以外は、物を書くため本を読んで過ごしていました。」そんな岡田さんに知人の方は、いろいろな役割を頼みながら、地域の様々なコミュニティとのつながりを作ってくれた。

「地域の方も温かくて。役場近くの商店のお父さんとお母さんは、どうせ食べるものもないだろうから食前においでよと毎晩ご飯に誘ってくれて。」1週間の予定が、1ヶ月、2ヶ月と延びた。いろいろな役割が増えるとともに地域との関係もでき、居心地も良くなつていった。

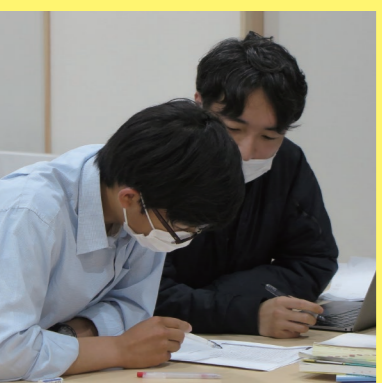
### 嶺北高校を魅力ある学校に

その後、土佐町内の教育系NPOでの活動に誘われ、高校生の学び支援に関わるように。一方、生徒数の減少に悩む嶺北高校では、2018年に嶺北4か町村長及び学校長による「嶺北高校魅力化の会」が発足、それを機に「嶺北高校魅力化プロジェクト」が始まった。人口減少が進む中、嶺北高校では2019年度の入学者が17名まで落ち込んだ。1学年20名を切ると統廃合の対象となるという危機的状況の中、魅力的な学校をつくり都市部からも生徒を呼んでこようと始まったプロジェクトだった。プロジェクトでは、嶺北高校の「良いところ」を整理し地域内へのアピールや地域外生徒募集イベントへ参加。これが功を奏して、翌年には37名の入学者となり、存続の危機は免れた。2020年にはその活動をベースとして、一般社団法人いほく未来創造協議会が設立。岡田さんは地域おこし協力隊員を経て、21年度から事務局長に就任。地域外からの生徒に向けた寮や、全ての嶺北高校生を対象とした塾の運営などを手がけている。

### 子どもたちの育ちに寄り添って

塾は、各自の興味に応じて学びたいことを深掘りし、必要に応じてスタッフが外部とのつなぎ役もする。また寮も、互いの価値観のすり合せは生徒同士で行うなど、ただ住むだけでなく主体的な学びの場ともなっている。一方、地域には60世帯ほどが参加する「嶺親の会(みねおやのかい)」があり、地域ならではの様々な体験活動の提供などを行うとともに、子ども達もそこできた関係性を通じて、地域でやってみようという、嶺親さんに直接相談したりもする。「彼らには、自信を持って自分の人生を決めていくようになってもらいたい。勉強にしても「知ること」が大事なんじゃない。さまざま学び、経験するなかで、何を「好み」、何を「信じる」のかということ、この高校時代に見つけてもらえたらと思う」

この環境で育つた子どもたちがどんな風に見えるか、岡田さんは楽しみにしているという。



一人一人に寄り添った学びの場を提供

## 令和4年度 社会福祉施設 総合損害補償 しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます  
 ふくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設などに **スケールメリットを活かした割安な保険料で充実補償をご提供します!**

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞) 保険期間1年

賠償事故	▶保険金額	
	基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中) 500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき) 1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用	死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

**新型コロナウイルスを含む特定感染症に新たな補償が追加されました!**  
**NEW 施設の感染症対応費用補償**  
 休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ① 休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ② 消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③ 感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

- プラン2 施設利用者の補償
- プラン3 職員等の補償
- プラン4 法人役員等の補償

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**  
 引受幹事 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
 保険会社 TEL: 03(3349)5137  
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**  
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
 TEL: 03(3581)4667  
 受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ21-12224 から抜粋)



高知県内の市町村  
社会福祉協議会ご紹介②

# 香南市の社会福祉法人が ふくしの学びを お手伝いします！

香南市社会福祉協議会

香南市は東西約 20km、南北約 15km と広く、  
県内3番目に人口の多い市（約 3.3 万人）です。  
5町村合併により誕生した香南市で、社会福祉法人と協力しながら  
福祉教育の推進を図っている社会福祉協議会の取組をご紹介します。

## 福祉教育の現状・課題

香南市内には小学校7校、中学校4校があります。福祉施設が近くにある小中学校では双方が協力し、施設訪問や当事者との交流などを通じた福祉教育が盛んに行われています。福祉施設が近くにない小中学校は香南市社会福祉協議会にプログラム作りを相談し、香南市社会福祉協議会は福祉施設に職員派遣を依頼するなど、各学校において年齢に応じた内容で特色のある福祉教育が行われています。

一方で、福祉施設はそれぞれ専門分野や利用者が異なるため、異なる分野についての説明が不足しがちで体験型プログラムが固定化されつつあり、対応できる職員が固定化するなどの課題も生じていました。

## 香南市地域貢献連絡協議会 発足

令和2年度より香南市内の全ての社会福祉法人が一堂に会し、社会福祉法人の使

命である「地域における福祉の充実・発展」に関する取組報告や意見交換を目的とした連絡会議を定期的で開催することになりました。

公益的な取組について一緒に考える場を設けたことで法人の規模や分野を越えて協力しあう機運が高まり、令和3年度には連絡会議を発展させ香南市地域貢献連絡協議会として再スタートしました。

そして、全法人のこれまでの取組を参考に「福祉教育推進チラシ」(写真参照)を作成し、福祉施設と協働した福祉教育プログラムづくりを教員に説明しました。

これにより、これまで関わりの薄かった福祉施設、分野のことが盛り込まれた新たな福祉教育プログラムが生まれることが予想され、香南市内の小中学校における福祉教育のより一層の発展が期待されます。



## 香南市社会福祉協議会の工夫点

- 参加法人の負担を極力減らしながらも、一体感や当事者意識が損なわれないよう配慮しました。その結果、参加7法人が主体的かつ積極的に議論に参加しています。
- 福祉教育推進チラシの作成・実践を通じ、分野を越えた法人連携、協働の仕組みづくりを行いました。
- 共通認識が図れる「福祉教育」を通じ、社会福祉法人と小中学校との連携強化を図りました。

## 香南市地域貢献連絡協議会 参加法人一覧(五十音順)

(福) 公生会、(福) 高知県福祉事業財団、  
(福) 高知県知的障害者育成会、(福) 香南会、  
(福) 土佐あけぼの会、(福) ふるさと自然村、  
(福) 香南市社会福祉協議会

## 社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

高知市朝倉倉375-1 県立ふくし交流プラザ内  
TEL.088-844-9007 / FAX.088-844-3852  
E-mail plaza@pippikochi.or.jp



<https://www.kochiken-shakyo.or.jp/>

### ふくし交流プラザへの交通のご案内

[お車で越しの方] 高知駅より車で約20分、高知ICより車で約30分、  
伊野ICより車で約15分、高知龍馬空港より車で約50分。  
駐車場：普通乗用車で約180台駐車できます  
[公共交通機関でお越しの方] 最寄りバス停「朝倉第二小学校前」下車すぐ

## QUOカードがあたる！ 読者アンケートに ご協力ください！



「プラットふくし」をより良い紙面としていくために、みなさまからのご意見をお待ちしております。ご回答いただいた内容は、今後の企画等の参考とさせていただきますので、右記QRコードより6月30日までにご回答ください。ご協力いただいた方の中から抽選で3名の方にクオカード500円分をプレゼントいたします。当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

アンケートは  
こちらから！

